

**FUNCTION 3**

抗菌+防污

---

**EVIDENCE**

除菌性

抗菌性

---

資料一覽

## 試験結果報告書

依頼者名 株式会社 1 Line 殿  
品名 生地 菌滅 B 1 点  
試験項目 ウエットワイパー類の除菌性能試験

2021 年 7 月 16 日提出の試料に対する試験結果は下記の通りです。

2021 年 10 月 12 日

一般財団法人 日本繊維製品品質技術センター  
神戸試験センター 森

### 記

#### 1. 試験施設に関する情報

- 施設名称 : 一般財団法人日本繊維製品品質技術センター 神戸試験センター
- 施設住所 : 神戸市中央区下山手通 5-7-3
- 試験担当者 : 森 仁美

#### 2. 試験試料

検体	ロット番号
生地 菌滅 B	—

- 試験試料受領日 : 2021 年 7 月 16 日
- 保管方法 : 遮光、室温にて保管

#### 3. 試験条件

- 試験方法 : 一般社団法人日本衛生材料工業連合会 ウエットワイパー類の自主基準
- 試験実施日 : 2021 年 10 月 4 日
- 試験菌種 (継代回数) : *Escherichia coli* NBRC 3972 (継代 3 回)
- 不活化剤の組成 : SCDLP プイヨン培地 (栄研化学)
- 試験試料使用枚数 : 1 枚

\* この報告書は、提出の試料に対する試験結果であり、ロット全体の品質を保証するものではありません。  
\* 本報告書の全部又は一部の無断転用を固くお断りします。

試験結果

不活性化剤の有効性確認

大腸菌 (*Escherichia coli* NBRC 3972)

検体	生菌数平均値(CFU/ml)	NT / NC
不活性化剤のみ (NC)	$1.3 \times 10^2$	—
生地 菌滅 B	$1.2 \times 10^2$	0.946

除菌性能試験結果

大腸菌 (*Escherichia coli* NBRC 3972)

検体	生菌数 常用対数平均値	除菌活性値
乾燥直後 (Ne)	6.70	—
対照試料 (Nc)	5.51	—
生地 菌滅 B	2.19	3.3

\* 試験結果詳細

- ・別紙 1 : 除菌性能試験結果 (大腸菌)
- ・別紙 2 : 不活性化剤の有効性確認試験結果 (大腸菌)

以上



## 別紙2

不活性化剤の有効性確認試験結果(大腸菌)

関連報告書No. : 21KB040571

2021年10月12日  
(一財)日本繊維製品品質技術センター  
神戸試験センター

## 試験試料

検体No.	ロット番号
生地 滅菌B	—

試験菌種: *Escherichia coli* NBRC 3972

検体No.	n数	コロニー数/ml		希釈倍率	CFU/ml	Average (CFU/ml)	NT / NC
不活性化剤のみ(NC)	1	140	141	1	1.4E+02	1.3E+02	—
	2	123	124	1	1.2E+02		
	3	125	130	1	1.3E+02		
生地 滅菌B (Nd)	1	118	128	1	1.2E+02	1.2E+02	0.946
	2	124	127	1	1.3E+02		
	3	121	123	1	1.2E+02		

株式会社 1Line 殿

Confidential

2021 年 4 月 23 日

株式会社 NBC メッシュテック

研究開発本部 バイオチーム

担当：藤田

## 抗菌性試験結果報告書

貴社ご依頼の試料に対する試験結果は下記の通りです。

### 1. 目的

貴社ご提供試料菌滅 A コート品（抗ウイルス剤添加）の抗菌効果を検証する。

### 2. 依頼者

株式会社 1Line 齋藤様

### 3. 実施日

2021 年 4 月 20 日～2020 年 4 月 23 日

### 4. 試料

- ・滅菌 A コート品（リファレンス）
  - ・滅菌 A コート品（抗ウイルス剤添加）
- 計 2 サンプル

### 5. 試験内容（JIS Z2801:2010 に準拠）

#### 5 - 1 試験概要

- ・試験菌：大腸菌（Escherichia coli, NBRC 3972）
- ・静置条件：35℃、24 時間
- ・洗い出し液：SCDLP 培地
- ・生菌数測定法：混釈平板培養法（標準寒天培地）

#### 5 - 2 試験操作

- サンプル片（5 cm × 5 cm）をシャーレ底面に貼り付けた。
- 菌液 400 μL をサンプル片上に接種し、PET フィルム（4 × 4 cm）を被せた。
- 35℃ 下で 24 時間静置した。
- 洗い出し液 10mL を添加し、ピペティングにて菌を洗い出した。
- 洗い出し液中の生菌数を寒天培地中のコロニー数により測定した。

## 6. 試験結果

### 6-1. 大腸菌に対する抗菌効果

試料	静置時間	生菌数 (log CFU/cm <sup>2</sup> )	抗菌活性値
滅菌 A コート品 (リファレンス)	24 時間	6.02	-
滅菌 A コート品 (抗ウイルス剤添加)		1.74	4.3
滅菌 A コート品 (リファレンス)	0 時間	3.95	-
初期菌数	-	3.87	-

検出限界 < -0.20

(N=3)

#### 【試験成立条件の判定】

- ・無加工試験片の接種直後の生菌数の対数値について、次の式が成立する。

$$(L_{\max} - L_{\min})/L_{\text{mean}} \leq 0.2$$

$L_{\max}$  : 生菌数対数値の最大値

$L_{\min}$  : 生菌数対数値の最小値

$L_{\text{mean}}$  : 3 検体の試験片の生菌数対数値の平均値

滅菌 A コート品 (リファレンス) : 0.0075 **成立**、

- ・無加工試験片接種直後の生菌数平均値が  $6.2 \times 10^3 \sim 2.5 \times 10^4$  CFU/cm<sup>2</sup>。

滅菌 A コート品 (リファレンス) :  $9.0 \times 10^3$  CFU/cm<sup>2</sup> **成立**、

- ・無加工試験片の 24 時間後の生菌数が 3 検体すべて  $62$  CFU/cm<sup>2</sup>以上 (ただし、無加工試験片がフィルムの場合  $6.2 \times 10^2$  CFU/cm<sup>2</sup> 以上)。

滅菌 A コート品 (リファレンス) :  $9.8 \times 10^5$  CFU/cm<sup>2</sup>以上 **成立**、

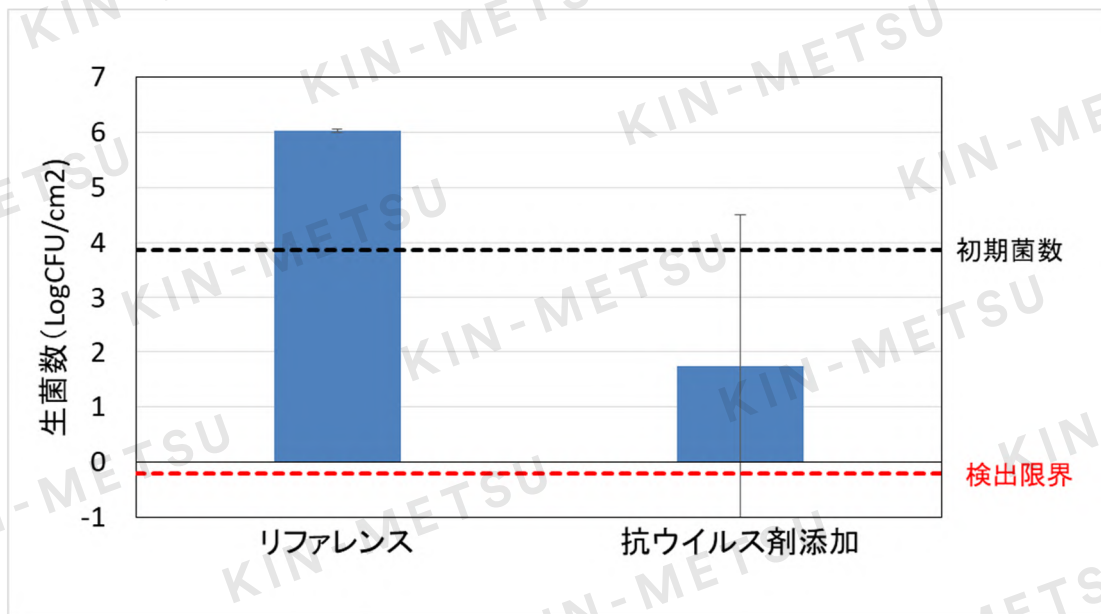
【評価基準】

・ 生菌活性値：  $R = (U_t - U_0) - (A_t - U_0) = U_t - A_t$

$U_0$ ：無加工試験片の接種直後の3検体の生菌数の対数値の平均値

$U_t$ ：無加工試験片の接種より24時間静置後の3検体の生菌数の対数値の平均値

$A_t$ ：抗菌加工試験片の24時間静置後の3検体の生菌数の対数値の平均値



抗ウイルス剤添加品において、24時間感作後の大腸菌生菌数は1.74 log CFU/cm<sup>2</sup>となり、  
抗菌活性値は4.3となった。

以上